

学生に望む

学 長 小 原 芳 明

玉川の丘での大学生活が始まります。そもそも大学は真理の追究の場でしたが、近代に入り、より高度な知識そして先端の技術を修得する機会にもなってきました。そのために多くのリソースが大学に集積されていますので、各人が将来、社会で何を実現したいという夢を持ち、その目的へ向かって大学のリソースを活用する努力をしてください。

現代日本社会の高学歴化は、学士号取得を社会進出の必要条件としています。しかし、それで充分と言えるでしょうか。これからは教育を受けた年数や修得した単位数の多少だけでなく、どれだけ品質の高い知識と技術を修得したのかが問われる時代です。今の社会は、履修ではなく修得を大学教育修了として評価する時代に来ているのです。大学での学習をより高めるための手段に5つのW（What、When、Where、Why、Who）と1つのH（How）があります。大学での学びの道は厳しいものですが、その厳しさを乗り越えてはじめて社会の評価が得られるのです。そこに高等教育の意味があるのです。

高等学校では知識を一方通行的に受け入れる学習が主ですが、大学では学生が自分の課題を持って必要な知識を積極的に修得していくことが鍵となります。また、大学での1単位は1時間の授業に対して教室外で2時間の学習（予習と復習）を前提としています。授業時間割の「空き時間」は、予習と復習のための時間として確保してあるのです。本学ではBlackboard@Tamagawa（遠隔教育システム）に予習教材だけでなく、次の授業へ向けて準備すべき事柄も提供しています。各授業計画はシラバスに明示されていますが、それは学生がより主体的に学習するために用意されたものです。本学のGP（Good Practice）の一つは、そうした大学での学習スタイルに馴染み、勉学を促進するためのFYE（First Year Experience）という初年次教育が推進されていることです。

これからの社会（日本国内外）で活動していくには、一層の自己管理が求められます。その一つは、自分の健康と安全を確保することです。日本社会の国際化にともない、昔のような「日本の水と安全はタダ」ではなくなってきました。本学の周辺街は、昼から夜への状況変化が著しく、夜は決して安全とも健康的とも言えません。ひと時の快楽への誘惑も一段と強くなってきますが、そうした勧誘に打ち勝とうとの気持ちがあつてこそ、自覚と責任のある大学生です。社会へ巣立っていく前の4年間を、さらなる自己管理能力を身につける機会としてください。

この丘では大学生の他に、幼きは3歳の幼稚園児から高校生までの玉川っ子たちも一緒に学校生活を送っています。そうした玉川の教育環境を踏まえ、今日から最高学府に学ぶ者としての自覚、誇り、そして責任を持ってこの丘での生活を送ってください。